

(1) 令和4年度事業報告について

○ 動物愛護教室

動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を図るには、次代を担う子供たちに対する教育が不可欠であることから「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「岐阜県動物の愛護及び管理に関する条例（所有者等の義務及び遵守事項）」に基づき、主に小学生を対象として動物についての理解、生命を慈しむ心の育成、動物愛護意識の高揚及び動物による危害の防止を目的とした動物愛護教室を開催する。

令和4年度は、各保健所で11回実施した。なお、令和2年度から4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止や実施を見送った事例があった。

動物愛護教室開催状況

回数等／年度	H30	R1	R2	R3	R4
開催回数	17	21	6	11	11
受講人数	1,520	2,504	440	1,392	1,145

西濃保健所（海津市立高須小学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健所）
 - ・保健所の動物愛護管理業務について、動物の適正飼養について講義。
 - ・事前にいただいた質問について、講義の中に回答を盛り込んだ。
- 保健所担当者の所感
 - ・殺処分に対し関心が高かった。
 - ・質問を受けるに従い、質問者が増えていき、動物に対する意識の高まりを感じた。
 - ・「動物を飼養するには責任を伴う」ことへの理解が深まった。
 - ・動物の命を通して、「自らの役割」についても考えるきっかけとなった。

可茂保健所（美濃加茂市立太田小学校、古井小学校、蜂屋小学校、山手小学校、加茂野小学校）

- 実施方法及び内容（講師：農業生産法人、岐阜大学、保健所）
 - ・ヤギ除草についての説明、クイズ。
 - ・ヤギを用いたふれあい。
 - ・ヤギの生態やふれあい時の注意事項、ヤギによる除草について講義。
 - ・心音機を用いた、ヤギと自分の心音比べ。
 - ・動物の適正飼養に関する説明。
- 保健所担当者の所感
 - ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。
 - ・ヤギが本物なのか？と発言する児童もあり家畜である山羊と触れ合うということがいかに非日常的な体験であるかということが感じられた。

東濃保健所（土岐市立濃南中学校、瑞浪市立土岐小学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健所）
 - ・保健所の業務内容について
 - ・保健所に引き取られる犬猫について
 - ・動物を飼養するときに考えなければいけないことについて
- 保健所担当者の所感
 - ・犬猫のいのちの授業は殺処分という言葉に目が行きがちであるが、生徒からいただいた感想文では多くの生徒が動物を飼ったら最後まで飼う責任があるということを理解してくれており、授業が有意義であったと感じた。

飛騨保健所（高山市立宮中学校、白川村立白川郷学園）

- 実施方法及び内容（講師：保健所）
 - ・「生きてるってどういうこと～捨てられた犬猫のお話～」(中学生向け)、「ペットにとってのしあわせってなあに？～保健所へ行くとうなるの～」(小学生向け)と題して、なぜペットを飼うのか、保健所に来た犬猫のその後、狂犬病について等を講義。
 - ・中学生に対しては、公務員獣医師の仕事内容を講義に加えた。
- 保健所担当者の所感
 - ・事前打ち合わせで学校側の意見を確認していたことで、要望に沿った内容の授業が行うことができた。
 - ・中学生に対して獣医師の仕事内容などを伝えることは、将来獣医師を目指すきっかけとなる可能性があり、重要であると感じた。
 - ・小学生向けには飽きないように問いかけを沢山取り入れたりしたが、児童は皆とても大人しく、声を出して答えてくれる子はいなかった。しかし皆、画面を見たり話をちゃんと聞いていて飽きた様子は無く、問いかけ方式は集中してもらうのに効果的に感じた。

○ 動物愛護推進員活動支援事業

県が推進員活動の環境を整備し、その活動を支援することにより、県民に対する動物の愛護及び適正飼養等の普及啓発を図る目的で、各保健所及びセンター管内の推進員活動の支援を実施した。なお、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛される愛護推進員もあったが、一部の方は活動を再開された。

揖斐センター

支援内容 愛護推進員が行う特別支援学級の児童を対象とした乗馬及び動物とのふれあい体験活動を支援。

関保健所

支援内容 動物愛護推進員に対して会議の場を提供し、毎月1回、情報交換などを行った。

郡上センター

支援内容 愛護推進員が行う犬猫の適正飼養の指導及びマイクロチップ登録制度の普及啓発を支援。

東濃保健所

支援内容 愛護推進員が行う多頭飼育崩壊によって飼育困難となった犬猫の保護活動を支援。

恵那保健所

支援内容 愛護推進員が行う多頭飼育崩壊によって飼育困難となった犬猫の保護活動を支援。

飛騨保健所

支援内容 愛護推進員が行う、マイクロチップ装着及び災害時のペットとの同行避難の普及啓発を支援。

下呂センター

支援内容 愛犬のしつけ教室を動物愛護推進員と共催。

○ 譲渡ボランティア登録

県内の保健所等は、ボランティアの協力を得て収容動物の譲渡を行っている。県生活衛生課で一元的にボランティアを登録し、広くボランティア登録者に譲渡対象動物の情報を提供している。また、令和4年度から登録ボランティア同士の連携の強化を目的に、ボランティア間の情報交換会を県が主催

している。

登録者 69人（令和5年6月27日時点）

○ 岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーの育成

災害時に動物救護活動を円滑に行うためには、ボランティアや動物愛護団体の協力が不可欠であり、個々のボランティア等の力を十分に発揮するためには防災知識及び動物愛護に関する知識を有するリーダーが必要となる。このため、災害時にリーダーとして活動する岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーを養成し、登録している。（任期2年）

令和4年度は新規登録者の養成を行った

岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーとは

1 活動内容

(1) 平常時

- ・ペットの災害対策に関する飼い主等への普及啓発

(2) 災害時

- ・動物救護ボランティアの受付
- ・避難所や動物収容施設等へのボランティア派遣の割り振り
- ・避難所や動物収容施設等での飼養相談受付、飼養管理方法の指導及び技術支援
- ・その他、岐阜県被災動物救援本部が必要と認めたもの

2 登録資格

18歳以上かつ、岐阜県が実施する被災動物救援ボランティアリーダー養成講習会を3回受講した者。

講習会開催状況

○令和4年度（新規登録者への講習）

	演題	内容	講師	参加者数
第1回	災害への心構えと備え～地震編～	災害時の心構えと対応などについて学ぶ	岐阜大学地域減災研究センター 特任准教授 村岡 治道 氏	5
第2回	ペットと防災 地域のつながりのなかでできること	被災動物の救援について学ぶ	特定非営利活動法人アンビシャス 代表 松岡 幸子 氏	6
第3回	ペット版避難所運営ゲーム（HUG）難易度＝やさしい	図上訓練により避難所運営について学ぶ	岐阜県動物愛護センター職員	5

地域別被災動物救援ボランティアリーダー登録者数

地域	岐阜	西濃	中農	東濃	飛騨	合計
登録者数	13	3	17	4	7	44

（令和5年4月1日時点）